

見 学 調 査 報 告 書

テーマ : IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス訪問
ゼミ名 : 辻野 幸子 ゼミ
調査日 : 2025 年 9 月 17 日 (水)
調査先 : IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス
授業科目名 : 演習 I II
参加学生数 : 8 名 (3 年)

調査の趣旨 (目的)

本ゼミのメインテーマである IFRS 会計基準は、IFRS 財団の国際会計基準審議会 (IASB) が開発している。また、本ゼミのサブテーマであるサステナビリティ開示については、IFRS 財団の国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) が IFRS サステナビリティ開示基準を開発している。今回の見学調査は、IFRS 財団のアジア・オセアニアオフィス (東京) を訪問し、IFRS 財団の活動内容や財務報告とサステナビリティ開示の関係性についての理解を深めることを目的として実施した。

調査結果

今回の見学調査では、IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス ディレクターの芝坂佳子様、ISSB マーケットエンゲージメントフェローの豊田和代様、マーケットエンゲージメントフェローの藤田輝也様からお話をお伺いした。

まず始めに、芝坂様から IFRS 財団とアジア・オセアニアオフィスの役割についてご説明いただいた。芝坂様のご説明は、単に組織の紹介にとどまらず、「会計基準とは何のためにあるのか」、「会計基準の設定で重要なことは何か」等、学生に考えさせ、その意見を踏まえながら双方向で行われた。

次に、サステナビリティ関連の情報が財務報告とどのような関係にあるのかについて、豊富な例を引用しつつご解説いただいた。こちらについても、「良い企業とは何か」、「企業の価値はどのようにして測定できるのか」等の質問を通じ、重要な企業情報のすべてが財務諸表に計上されているわけではないことや、知的財産等の無形資産の重要性、企業が持続可能であるための条件など、様々な事項について学生が自ら考え、気づきを得られるようにお話いただいた。

豊田様と藤田様からは、アジア・オセアニアオフィスで日々どのような活動をされているか、具体的にご教示いただいた。また、監査法人にいる時と IFRS 財団にいるときの視座の違いや、IFRS 財団で働くことの魅力等についても学生に分かりやすく丁寧にご説明いただいた。

最後に、統合報告フェローの高橋範江様にもご参加いただき、グローバル領域で働くことや、グローバルで活躍するために学生のうちに身につけておく良いこと等についてアドバイスいただいた。

見学調査を終えて、学生からは、サステナビリティは環境や社会の話だけでなく企業の経営や財務報告にも深く関係していることが分かったとの意見が多く聞かれ、今後の演習授業でサステナビリティを学ぶ際の良い導入となった。また、グローバルで活躍するためには、英語力の向上に加え、自分の意見を持ちそれを発信していく力が非常に重要であるとの気づきを得たとの声も多く、IFRS 財団の活動内容に対して理解を深めるだけでなく、学生が今後のキャリアを考えるうえでも有意義な見学調査になったと考える。

